

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600012		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	草津温泉湯治館そよ風		
所在地	群馬県吾妻郡草津町大字草津464-702		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成31年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ゆったりとした時間の流れの中でご利用者の大切な一日が 穏やかに過ぎていただければと願っております。</p> <p>・天下に名高い草津温泉とゆう恵まれた資源を 日常生活の中の当然のこととして有効活用しております。</p> <p>・最近美味しくバランスのとれた食事を基として 健康寿命を延ばすお手伝いをさせて戴いております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>健康寿命を伸ばすため、食事と入浴を基本に、下肢の筋力維持に向けて取り組んでいる。センター長が交代して間もないなか、「やってみる」ことをモットーに、機能の維持と活動範囲の拡大に成果をあげている。日々の支援においては、職員全員が笑顔でいることが、利用者のケアの向上に繋がると考え、職員のメンタルの保持を大切にしており、職員の意見、要望や困っていること等を聞き反映に努めている。そうしたなか、利用者一人ひとりに向き合い寄り添うケアを実践している。家族や地域との交流も活発で、誕生日には家族に来てもらい一緒に食事をしたり、町の文化祭に作品を出品したり、町の商店で買い物をしたり、夏祭り時の子供みこしのよりあい場所となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和しております。掲げられた理念が絵に描いた餅にならぬよう、日常の介護の中で自問し助言し実践に繋がるよう努めています。	毎日理念を唱和しており、それぞれの職員が理念である5つの「あい」を職員間で共通認識し、実践に活かして行くことが利用者のケアの向上につながると認識しているが、理念の共通認識を課題と感じている。	日々のケアのなかで、理念の意味、認識のすり合わせを行い、職員全員で、共通認識し、同じ方向でケアをしていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのお祭り・イベント等、に参加しています。町内での買い物や散歩などを通して交流を図るよう努めています。町の文化祭には毎年参加して入居者様の作品を展示しています。	キッズダンスやフラダンス、警察の音楽隊やバンド等の訪問を受け入れている。地域の祭りでは、お神輿が事業所まで来てくれる。区長と連絡を密にし、町内会に所属し、回覧板で地域の情報を取り入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こちらの施設に対してご質問があれば、地域の方々からの相談のみならず、上層部も含め 誠意をもって対応させていただきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回開催しています。当施設の現状報告を中心に、出席者から意見や関係情報を頂いています。ご意見は大事な情報源だと受け止め サービスに活かすよう努めています。	町の福祉課や警察、消防署、区長、民生委員が参加している。家族には輪番制で参加を依頼している。会議開催の案内や会議の議事録は、請求書や新聞と一緒に郵送している。参加者は少なく、食事をかねて会議を開催するなどして、参加増加にむけて取り組んでいる。利用者の日々の状況や暮らしぶりについて伝えている。	さらなる参加増加にむけての取り組みとともに、参加者からの意見や助言等を運営に反映できるような会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から管理者が入居様の入院や空き情報について報告し相談をすると共に、骨折、感染などの事故が発生した場合は早急に報告を上げるよう努めています。	町は分からないところを聞ける場所として、現状報告や利用者のことを相談している。地域包括支援センターと連携して、一人暮らし高齢者の相談も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、話し合いを行っています。職員間では身体拘束をしないケアをめざし、難しい案件に対しては皆でカンファレンスを開いて問題の解決法を探っています。	身体拘束ゼロを目指して、管理者が本社の研修会に参加している。資料を全員に配布し、カンファレンスで伝達講習している。利用者の生活でのリスクが高く家族から拘束の希望があっても職員で対応の工夫や見守りをして、拘束のない環境を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員教育の1つに掲げ、ようやく言葉使いなどの面にも注意が出来る環境に近づいてきました。自然に職員間で指摘し合える環境が出来たらと考えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用出来る方がいるのであれば 手続きを行ないスムーズに実施できるよう受け入れをしたい。今現在、1名の方が自立支援事業サポートを受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明を行うことは当然のことですが、出来る限り当施設(グループホームも含め)全体の雰囲気を感じ、見学して頂いたうえで契約に至ることが望ましいと考えております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは出来る限りお話しをするよう心掛けています。その中で要望を聞いたり、情報の共有を図るよう努めております。また2カ月に1度、運営委員会を開き地域の声も聞くようにしています。	家族の面会時に現状報告を行い、希望や意見を聞いている。聞き取った情報は些細な事でも忘れないようにノートに記載し、職員間で情報共有している。家族の意見により、床暖房になっているが、角部屋は寒いのでファンヒーターを設置し温度管理につなげた実績がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム職員間でカンファレンスを行ったり、申し送りノートを使用して情報の共有を行なっております。意見の違いはありますが、話し合う中でお互いを認め合う習慣と関係性を築き、それがご利用者様介護へも繋がればと考えます。	職員へのキャリアアップの声かけや本社研修への参加を呼びかけている。毎月のカンファレンスでは、職員一人ひとりが意見を言う機会があり、管理者は本社に伝えている。また、利用者別アイデアファイルがあり、職員が気づいたことをメモ用紙に書いてファイルに入れることで利用者ケアにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己推薦にて正社員登用制度が始まりました。今まで管理者の私情を踏まえた部分がありました。今後は研修参加や資格取得など、個人の努力次第で位置づけが変わり、やりがい、向上心、自己責任感を持てると考えます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設でも勉強会や職員研修を実施していますが新人職員には指導担当者をつけ業務を行いながら技術を見につける体制をとっています。今後は本社や事業部、外部施設での研修に参加を促す仕組みづくりを考えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内ではセクション会議に参加し県内外の他施設と情報共有をしています。それとは別に地域のコメディカルとの関係性づくりも大変重要であり、職員の参加意識づくりも必要だと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様とは関わり合いを密接にし、困りごと、不安などを傾聴している。安心してサービスを利用できるように信頼関係を築くことを重要としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは面談時より、ご自宅での困り事、介助での相談事を傾聴するよう努めています。その中から、ご家族様の要望を把握し、こちらからも対応を変え、手紙でも連絡を取りつつ信頼関係を築くよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お互いがサービス導入じの面談で多様なサービスの選択肢がある事を提示する。ご本人様、ご家族がより最適なサービスをご利用できるように支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に対し、共に暮らすもの同士、人生の先輩であることを念頭に置いている。職員から色々な事を学ぶ姿勢で、利用者様との関係がスムーズに進むようコミュニケーションを図り、接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはご本人様の生活状況や身体状況を面会時や手紙などで随時報告、共有している。また、ご家族様が面会に来て頂き、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様と自由に面会に来て頂けるようにしている。ご家族様と外出、外泊が出来る様に支援している。また、言語化されない利用者様の対応では、定期受診時の帰りに町内を散策できるように努めている。	家族の情報や利用者のお話から、地元の食堂を利用していたことなど、馴染みの人や場を把握し、会話から聴取した内容は、家族に伝えるようにしている。蕎麦を打っていたという発言から、現在、蕎麦打ちをする計画をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話では楽しくできるように、職員が間を取り持つ。また利用者様に寄り添った支援を行えるように、性格や生活史等の情報を把握し、円滑な人間関係を築く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族様から相談があった際には話を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の思いを尊重し、在宅で過ごしていた暮らしを継続できるように努めている。また、言語化できない利用者様でも日々の生活状況等から思いや希望、意向の把握に努めている。	意思疎通ができない方もおり、話しかけたり、時にはボディータッチをして向き合っている。入居してすぐの利用者にも、うちとけて笑顔がみえるよう、声のトーンの工夫や共感の声かけを続けるようにしている。利用者のしぐさや行動パターンから、把握していることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様に対し、共に暮らすもの同士、人生の先輩であることを念頭に置いている。職員から色々な事を学ぶ姿勢で、利用者様との関係がスムーズに進むようコミュニケーションを図り、接している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の生活歴、習慣などの情報を把握し、併せてサービス利用の経過状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画、モニタリングの実施をしている。ご本人様に対するご家族様からの情報や思い、職員からの日々の状況を元に、アセスメント、ケアプランを作成している。	ケアマネージャーが管理者や職員に、特に日常生活動作については聞き取りをしている。日々のケア記録から情報を得てモニタリングを作成し、計画につなげている。職員は、計画に目を通してからケアを行っており、気になるところがあると直接ケアマネージャーに話している。	ケアプランと日々のケア記録がつながり、ケアプランに沿ったケアにつながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況で気付いた点などを介護記録に記入している。また朝礼、夕礼時には全職員が状態を共有できるように申し送っている。モニタリング、介護記録を参考に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人一人好まれている手作業、レクリエーションに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ダンスや楽器演奏などボランティアの地域資源を活用し、心豊かな生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の定期受診時、町内のかかりつけ医であれば、付き添い介助をおこなっている。また、受診した時の内容をご家族に電話で伝えている。	基本は今までのかかりつけ医に、家族対応で受診している。事業所のかかりつけ医と隣接する病院には、職員が付き添い対応している。診察の結果は、変化があれば家族に知らせ、受診結果は職員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で看護師による健康管理を実施している。利用者様一人ひとりの状態について、相談や対処法を頂いている。重度化しない様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、面会に行く。病院側と身体状況やメンタルケアの確認等の情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者様のご家族に終末期のケアについて説明を行っている。介助でも食事が摂れない場合など、施設では対応できない事を説明、重篤化した時の事も想定した話し合いを行っている。また、協力病院などの医療機関との連携を図り、支援している。	入居時に、終末期についての説明を行っている。看取りを行う医師がおらず、医療的処置が必要な場合、終末期や急変時の対応については、看護師と相談して家族に伝え、かかりつけ医とも話し合い対応方法を決めている。経口摂取が可能ならは、事業所で過ごせるよう対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会での応急処置、AEDの使い方、心肺蘇生術を学び、共用している。万が一、急変や事故発生に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害を想定した避難訓練を年2回実施している。日中、夜間を想定した訓練を行い、消防隊等にアドバイスを頂いている。また、施設の近くの避難場所の確認を行い、災害に備えている。	年に2回避難訓練を実施している。避難訓練時に、消火器の取り扱いや地震を体験する機会を作っており、今期ははしご車の体験を計画している。備蓄は、水や缶詰めをそろえている。地域の方の参加はない。	運営推進会議のメンバーを通して、地域の方の参加につながるような働きかけとともに、災害時に備え理解者が広がることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会、グループホームカンファレンスで人格の尊厳やプライバシーの確保について学んでいる。また、業務中でも職員同士で注意を合い、行っている。トイレ、入浴などのプライバシーに関わる事について、利用者様一人ひとりの性格に合わせ、対応を行っている。	本社での研修に参加したり、各部署ごとに勉強会を行ったりして、職員の意識を高めている。排泄介助や入浴時は、自分だったらどう対応するのかを考えて行動している。また、朝礼では、利用者の呼び方、言葉遣い等に不備があれば、注意事項として伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で利用者様の思いや希望を表現できるようにコミュニケーションを行っている。一日一回のセレクトドリンクを決めて頂いたり、手作業やレクリエーション等のやりたい事を選んで頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを把握、尊重し対応している。職員は業務時間内で利用者様を急かしたりする事はせず、ゆったりと落ち着いた生活が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選び、おしゃれが出来る様に努めている。ご自分で洋服を選ぶ事が出来ない方は何種類か洋服を見せ、選べる様に努めている。また、整容できる時間には、髭剃りや整髪等をして頂き、身だしなみを整える様に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントやレクリエーションで利用者様とおやつ作り、昼食作りを行っている。時々ではあるが、町内の食堂や弁当屋で出前を取り、皆様で楽しく食事をして頂けるようにしている。	米飯とみそ汁、おやつは各ユニットで、主菜副菜は厨房で、利用者の機能や能力に合わせて食形態を変えて提供している。陶器の食器を使い、利用者とは話をしながらすすめている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を把握する為に記録に残している。事業所では一日の水分摂取量1500mlを目標とし、取り組んでいる。但し、糖尿病等のカロリー制限のある方や水分摂取の制限のある方は、主治医の指示に従い、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。義歯のある方は毎晩洗浄剤での義歯の消毒を行っている。ご自分の歯がある方は歯磨き粉を使用したケアを行っている。介助の必要な方は職員が介助を行い、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	共同トイレを使用し、時間ごとのトイレ誘導を行っている。また、利用者様の仕草やパターンを把握し、トイレの声掛け、誘導を行っている。ご自分でできる範囲(ズボンの上げ下げ、陰部を拭く、パットを汚物入れに入れる等)はして頂き、パットを直す、ズボンを上げ直すなどの仕上げを行っている。	“やってみる”ことを大切にして、取り組んでいる。自分でできるところまでは見守り、できないところを介助しており、全介助だった人が時間誘導による声かけ等により、車いすでトイレを使えるようになったり、おむつ対応の方がリハビリパンツになった実績がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士によるバランスのとれた食事を提供をしている。また一日の水分摂取量を把握し、便秘予防に心がけている。水分勧めてもを摂って頂けない方にはゼリーなどで水分を補う様に努めている。腸の運動が良くなる様に体操や体を動かすレクリエーションを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時の体調や状況に応じて支援を行っている。月一回体重測定を行い、体重の増減を把握している。事業所には温泉が完備されており、温泉入浴の提供を行っている。利用者様と楽しい談話や歌を歌い、くつろいで入浴が出来る様に努めている。入浴を拒まれる方には時間を空けたり、職員を代え声掛けを行い、対応している。どうしても拒む時は、清拭や足浴を行っている。	草津温泉のお湯がかけ流しで、利用できる。入浴できない方には、温泉の足浴や清拭をするなどしている。入浴時は一番のコミュニケーションの場と捉え、話をしたり歌を歌ったりする場としている。車いすで入浴できる機械浴がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日に布団を干している。また定期的、状況によってリネンの交換を行っている。気温の変化や利用者様の状態によって換気や暖房等を行い、気持ち良く眠れるように行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が各利用者様の薬剤情報を把握できるように個人ファイルに挿入してある。利用者様の病気に関する症状や体調の変化した時、主治医に相談し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や趣味などの情報を踏まえ、その方が楽しめる時間を持つよう支援を行っています。ご本人様の残存機能を維持し高められるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と外出、外泊され楽しいひと時を過ごせるよう努めています。また職員とも買い物に出掛ける機会を設けています。初夏からの気温の高い日には外気浴を行ったり、散歩をしながら咲いている花をめでたり、それぞれの季節を楽しめるように支援を行っています。	雪のない5月から10月は、庭先に出ておやつを食べたり、ゲームを楽しんだりしている。ミニ菜園があり、いんげんやジャガイモを作って、食卓に並べている。散歩は日常的に行い、事業所前の坂道を登り、リハビリの機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のご家族に使用の趣旨を伝え、書面にて同意を取交し事業所内の金庫にて小口現金を預かっています。出入金は毎月記録に残し、月に1度はご家族様に詳細を送付してご本人様の必要物品や受診代に充てています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様宛の手紙は返信もできるような支援をしております。施設内の電話は自由に使用でき、取次も行っておりますが、近頃は携帯電話を使用され自由にご家族様と連絡を取ることも可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場は室温や強い日差しに注意しています。空気が乾燥する季節には加湿器を使用し、湿度調整に気をつけております。冬期間は床暖を使用したり、個室の季節に応じた風景や壁飾り、書道等を制作、掲示している。	全面床暖房になっており、季節によって加湿器を使用して、湿度と温度の管理を行っている。共有空間にはソファがあり、キッチンからの洗い物や調理等の生活している音が聞こえる環境にある。季節の飾りつけがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは利用者様同士と一緒にTVを観て話題にしたり、ゲームや作業を行なう空間を提供しております。中には窓辺で日向ぼっこをしたり、ソファに腰かけ、人の気配が感じられる中で、安心してかうたた寝をされる方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様のご自宅で愛用されていた品物を持参して頂き、穏やかな日常生活を送れるように支援しております。また、ご希望の利用者様には居室内でTVやこたつの設置も可能です。	ベッドと括りつけのタンス、机と棚があり、持ってきたものを飾れるようになっている。こたつに座ってテレビを楽しんだり、自分の作品を貼ったり、家族の写真を置いてある。食後は自分の部屋でお茶を入れて楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行可能な方にとっては転倒に繋がらぬよう障害物を取り除いております。また、ADLが低下した方にも状態に合った自助具を探り、ご利用者様が生きがいのある生活を続けられるよう支援しております。		